

◆ 目指すべき将来像

あらゆる主体の活動・行動のもと持続可能な社会をつくるため、

- ・環境問題に気づき、学習し、主体的な判断ができる人が育つ
- ・環境問題の解決に向けて自ら進んで取り組む実践的な人や組織が育つ
- ・環境保全活動の輪が広がり、環境のもたらす恵みを次世代に引き継ぐ

◆ 将来像の実現に向けた基本的な方向性

- ・あらゆる世代が、多種多様な機会・場所で自ら主体的に環境について学習できるようにします。
- ・活動の場、適切な情報等を提供することにより、家庭、学校、職場、地域その他のあらゆる場において、環境負荷低減に向けて、主体的・継続的な活動が実践され、取組みが広がるように支援します。
- ・多様なテーマにおけるあらゆる事業・活動において、「環境」という要素を意識することで、活動の広がりを図ります。

◆ 計画期間 概ね10年（2013年3月～）

2030大阪府環境総合計画における将来像・実現すべき姿

2050年のめざすべき将来像

大阪から世界へ、現在から未来へ 府民がつくる暮らしやすい持続可能な社会

- 現在だけでなく将来にわたって、限りある資源や自然の恵み、良好な環境を保全しつつ、（中略）府域におけるCO2排出量の実質ゼロ、大阪湾における海洋プラスチックごみによる追加的な汚染ゼロ、資源循環型の社会が実現している。
- 府民、事業者、研究機関やNPO等の民間団体、行政など各主体における1つ1つの取組みが大きな力となって、快適で文化的な生活や健全で豊かな環境を創り出している。
- 府民の営みは、次世代とつながり、その影響は将来に波及し、持続可能な社会が構築されている。

2030年の実現すべき姿

いのち輝くSDGs未来都市・大阪 –環境施策を通じて–

魅力と活力ある快適な地域づくり



- 府民、事業者、民間団体、行政など各主体が積極的に参加し、自ら行動する社会となっている。
- みどりが多く、豊かな水辺や歴史・文化が活かされ、多様な働き方が普及するとともに、安全・安心で持続可能な「暮らしやすい」「働きやすい」「訪れたい」都市となっている。
- ヒートアイランド現象が緩和されるなど、快適な生活環境が確保されている。

➡ 次期計画の将来像等については、上記を踏まえることが必要。

めざすべき将来像・基本的な方向性、計画期間（案）

◆ めざすべき将来像・基本的な方向性

- 現行の行動計画における将来像・基本的な方向性は、2030大阪府環境総合計画（以下「総合計画」という。）に掲げる将来像 及び実現すべき姿の実現につながるもの、かつ、これまでの部会における議論の方向性と一致する考え方である。

➡ 現行計画と同じ考え方としてはどうか。

◆ 計画期間

- 大阪府環境教育等行動計画は、総合計画に掲げる2030年の実現すべき姿「いのち輝くSDGs未来都市・大阪」の実現に向けた個別計画。

➡ 総合計画と同じ2030年度までとしてはどうか。